ケースプレゼンテーション審査結果報告書(様式11)

		<i>/</i> /// -	* /	* 4 * B ± 14/		 /			
発表学会	□日本補綴歯科学会	□日本顎咬合学会	第	回学術大会	発表日(審査日)	西暦	年		日
	□日本補綴歯科学会	□日本顎咬合学会	令和	年度支部学術大会			4-	月	
演題名						審査員氏名			得点
発表者名								印	
所属								Hì	/50
未昌の七へ									

審査は16項目で構成されています。各々について、満足(十分できた:3点)、ほぼ満足(十分ではないができた:2点)、やや不満足(十分できなかった:1点)、不満足(全然できなかった:0点)で評価をお願いします。なお、「7. その他」については、満足(十分できた:5点)、ほぼ満足(十分ではないができた:3点)、やや不満足(十分できなかった:1点)、不満足(全然できなかった:0点)で評価をお願いします。また、お気づきの点がありましたら、下欄にご記入下さい。

次以 くらいかいょう	た:0点)で評価をお願いします。また、お気づきの点がありましたら、下欄にご記入下さい。	満足	ほぼ満足	やや不満足	不満足
		3	2	1	0
1. 医療面接	ならびに診察		_		
Α.	医療面接ならびに病歴聴取を行い、その結果を説明できた。				
В.	当該疾患に対して必要な診察ならびに検査を実施した。				
C.	診察ならびに検査の結果を適切に説明できた。				
2. 診断					
A.	病態を説明できた。				
В.	症例の問題点を説明できた。				
C.	正しい診断を下すことができた。				
3. 治療計画	Tならびにインフォームド・コンセント				
A.	診断に基づいて複数の治療法を選択し、それぞれについて説明できた。				
В.	インフォームド・コンセントに基づいて治療方法を選択した。				
C.	適切な治療計画を立案した。				
4. 治療術式	て・治療効果				
A.	治療術式が合理的であり、補綴歯科専門医として評価できるレベルであった。				
В.	治療効果が高く、補綴歯科専門医として評価できるレベルであった。				
C.	技工操作と材料に関して説明できた。				
5. 術後管理					
A.	術後管理を行っていた。				
6. 発表					
A.	発表症例について十分に理解していた。				
В.	質問に対し適切に回答できた。				
	チェックされた項目数:				
	小計:				
		満足	ほぼ満足	やや不満足	不満足
		5	3	1	0
7. その他					
A.	本症例に関する学術的知識および技術				
	사람:				
	総得点:				

判定 ケースプレゼンテーションの合格ラインは、不満足項目なく30点以上とするが、資格の認定は、専門医認定小委員会で総合的に判定する。

ご意見(審査委員は必ず総括して下さい。また、「不満足」項目があった場合は、必ず理由を記載して下さい。)